
lastblaze ~ 最後の光 ~

桃源 翔華衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

lastblaze ～最後の光～

【Nコード】

N9237F

【作者名】

桃源 翔華衣

【あらすじ】

「忘れないでって言ったのに」少年は探した。彼女を、契約の内容を、自分を、そして光を……。駄文です。はい

プロローグ（前書き）

残酷な描写有りですお気をつけてください。

プロローグ

「何だ・・・コレ・・・」

それは余りにも現実離れしていて、余りにも可笑しな光景に、彼らは目の前の光景にただ間抜けな声を上げることしかできなかった。暗闇の中でもはっきりと判るほどの存在感、ツンと鼻に来る鉄臭いにおい。

それは普通に生活をしていれば見ることの無いで在ろうモノ。人間の死体。

「おっはよ~~~~~~~~う!!!」

黒髪黒目、若干背が高く、目に前髪がかかって表情が見分けにくいという、至って普通の高校生の桜井剣斗は毎朝行われる白羽由菜の朝の挨拶を軽く後ろに下がっただけで受け流した。

「・・・チツ・・・外したか」

悔しそうに拳を握り締めて由菜がコンクリートの壁をも破壊できそうな視線を剣斗に向ける。

「・・・はよ。てか、いまの当たったら確実に死ぬだろ」

「んふ」

「んふじゃねーよ」

「どーせ当たらないし?」

「ったく・・・」

そう。これが剣斗と由菜の毎日の朝の挨拶だ。朝、学校前まで来ると突然由菜が跳び蹴りを喰らわしてくるのだ。当たったことはないが。

「何で剣斗は避けちゃうのかねえ」

まるで当たれと言っている様な物言いに少しむっとしたが普段からコレなため、仕方がないと諦めた。

「毎日タイピングで同じスピードで同じ所を狙われてたら、当たる攻撃も当たらんと俺は思う」

「それもそうね。・・・？武と誠也だ」

由菜の目の前には、炎神武と水竹誠也がいた。

炎神武は名前道理かなり暑苦しい人間だ。常に人をその暑苦しすぎるワールドへ引き込もうとしているという。本人曰く「俺の世界は誰にも壊せねえ！！」らしい。

そしてこの水竹誠也は唯一武を止める事のできる出来る何処か近づき難い感じの少年なんだが、あの武君が誠也までもワールドへ引き込もうとしたため、友・・・悪友になれたのだ。彼曰く「炎（武）を止めるのは水（誠也）のみ」だと。間違っではない。

「はよー、武、誠也」

「ん・・・はよ」

「おはよう。さくら」

「どしたの武。元気ないね？」

誠也の呼び方も気にはなるが、なにより武の元気が無い。さては彼女に降られたか？

「夢を見たんだって」

「夢？」

何だそれ。夢見てそんなに落ち込むのか？どんな夢だよ。

「桜井」

突然名前を呼ばれて剣斗はびくつとした。

「あ、ああ、何？」

「お前が・・・死ぬ夢だと言ったらどうする？」

「は？」

俺が死ぬ夢？いい気がするわけじゃないがそんなに気にすることでも無いだろう。何でそんなに落ち込む必要がある？その時恐る恐る

と言った風に由菜が口を開いた。

「私も・・・見た。」

「・・・っ!」

「実は僕もなんだよ」

「な・・・」

どう言う事だ？一人ならともかく、三人って・・・

「しかも僕と武は同じゆめだったんだよ。」

「同じ・・・?」

「そう。暗い路地で桜井以外の三人で歩いているときみが道の真ん中で腹に傷を負いながら倒れている」

なんだ？まだあるのか？そう思っているとまた由菜が口を開いた。

「こう言ったの。last blaze。最後の光って・・・そして・

・・・」

それきり誰も喋らなくなった。

「とりあえず学校はいるう?」

由菜はいった。それに従い、四人とも校門をくぐった。

プロローグ(後書き)

下らん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9237f/>

lastblaze ~ 最後の光 ~

2010年10月19日18時26分発行